



稲穂のさとし

吉見町立吉見中学校
学校だより 第11号
令和6年1月9日

あたりまえのことがあたりまえにできる学校

謹んで新年の御挨拶を申し上げます

元日から未曾有の災害、翌日の大きな飛行機事故、さらには九州での大規模な火災など、新年早々から心が痛みます。不安な状況は未だ解消されておらず、衷心よりお見舞い申し上げます。

予期せぬ出来事が起きると、誰もいたたまれない気持ちになるものです。だからこそ、毎日感謝し、充実した一日一日を過ごしていくことが大切だと考えます。

私たち吉見中学校教職員一同は、こうして無事に3学期が始業できたことに感謝し、今年も「すべては子供のため」をモットーとして指導にあたります。そして、全力でお子様の成長のお手伝いをさせていただきます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

新しい年の始まりです！！

令和6年の幕開けです。

この冬休み、充実した毎日を送ることができましたか。また、冬休みの目標に沿って、満足のいく冬休みが送れたでしょうか。さあ、今日から気分一新、3学期のスタートです。

今の学年での生活も、残すところあと3ヶ月です。学校に来る日数で言うと、今日を入れて修了式まで53日(3年生は、卒業式まで47日)です。たったの7週間、2ヶ月程しかありません。そう考えると、あっという間ですね。

卒業式や修了式では、「吉見中学校の生徒で本当に良かった！4月から頑張るぞ!!」と、思えるようにしたいものです。



新年の抱負を実行に移そう

3学期の初日、すなわち1月9日(火)の今日、みなさんは、新年の抱負や夢をもち、新たな気持ちで登校してきたはず。「1年の計は元旦にあり」です。2学期最後の学校だより「稲穂のさとし」や終業式の式辞でも触れました。1月1日の元旦、元旦とは1月1日の朝という意味ですが、新たな気持ちで新年を迎え、新しい目標を立てるのが、昔からの習わしです。

今日のみなさんは、一段と輝いて見えました。これは、「1年の計は元旦にあり」を実践してくれたからに他なりません。

新年に立てた抱負や夢を叶えることができれば、こんなに素晴らしいことはありません。目指すべきものが高ければ高いほど苦難も多いわけですが、逆にそれを乗り越えれば、達成した時の喜びも大きいものです。しかし、それが途中までしかやり遂げられなかったとしても、抱負や夢に向かって努力したことは、いつまでも自分自身の大きな自信となって残ります。決して無駄なことではありません。抱負や夢に向かって努力する過程こそ、もっとも大切にされるべきことです。

ですから、みなさんが新たな気持ちで描いた抱負や夢を1年間もち続けられるよう、また、信念をもって自分の目標に向かって歩いていけるよう、私たち吉見中学校の教職員すべてが、しっかりと支援していきたいと思えます。

いずれにしても、3学期がスタートしました。学校では、年度のまとめの時期になります。それは、次の学年につなげる準備期ともいえます。3学期は、進級や卒業を迎える年度末の学期であり、来年度への橋渡しとしても重要です。3学期はあっという間です。ただ何となく気ままに過ごしていると本当にすぐ3月がやってきます。

この3学期も、学習や運動に努力を重ねて、自分の力をさらに高めながら、自分の持っている良さをどんどんクラスや学校全体に出していけるような、そんな毎日を送っていきましょう。



授業研究会(道徳科・数学科)

子供たちの学力向上は、学校教育における最大ともいえる使命です。その大前提は、教師の授業力であることから、本校では、教員同士による模擬授業や研究授業等に取り組んでいます。

先月は、3年生の道徳科と数学科において、授業研究会を実施し、授業力向上について研修しました。

教師の授業力向上は、子供たちの学力向上に直結します。そのため、本校では「子供をその気にさせる導入のあり方(導入の工夫)」「ねらいとまとめの整合性(ねらいからまとめに向けて突き進む展開)」「生徒の実態に即した指導の工夫(教師自らの単なる自己満足な授業になっていないか)」等を念頭に授業を進めています。

今回提案された研究授業を全職員で共有し、さらなる授業の充実を図っていきます。



地域と卒業生に支えられる吉見中学校

言うまでもなく、本校は吉見町にとって唯一の中学校です。本校からすると「地域」とは、吉見町内全域ということになります。そんな吉見町全域から多くの期待をされつつ、多くの支援も受けています。これは本当にうれしいことですし、ありがたいことです。

開校66周年を迎えている吉見中学校は、これまでに17929人の卒業生を輩出しています。卒業生が、吉見町にとどまらず、日本全国で活躍していることは、大きな誇りです。

そんな地域の方や卒業生に支えられている話題を2つ紹介します。

このたび、昭和35年4月から昭和47年3月まで本校に勤務された金子 典彦先生(北小校区在住)から、吉見中生のためにと「日本国語大辞典(全20巻)」を寄贈していただきました。

金子先生は、吉見中を異動された後、校長先生として県内各校で御活躍されました。

そうした金子先生ですが、現役の吉見中生にとっては、体育館右上に掲額してある校歌を揮毫した先生と言えば、身近に感じてくれることでしょう。

現在は、教育界からは御勇退されていますが、こうして未だお元気で吉見中学校のことを気にかけていただいているそのお気持ちがなによりもうれしいことです。

さっそくに学校図書館に配架しました。

今後、本校の学習活動において有効に活用させていただきます。



先の記事で紹介した数学科授業研究会では、元埼玉県立高等学校の校長先生で、現在は東京理科大学教職教育センター特任教授の松本 明先生をお招きし、御指導をいただきました。今も吉見町にお住まいで、本校の卒業生でもあります。

松本先生は教育に対し熱い先生です。誰よりも吉見愛が強く、その愛が故に吉見町の子供たちに何かできることはないかということが原動力となり、本校においても昨年度から、私の前任校でも一昨年度から連携を図らせていただいています。

今回、1月13日(土)を第1回とし、吉見中生のために「数楽教室」を開講していただきます。

場所は、図書交流館(ぷらっとよしみ)です。時間等は、数学の授業を通じて紹介済です。

あくまでも地域(卒業生)の方によるボランティアという位置づけですので、本校の教育活動とは、直接に関係はありませんが、「数が苦」から「数楽」にしたい生徒にとっては、卒業生の教育力に頼ってみるのも一案ではないでしょうか。



吉見中生の活躍

身体障害者福祉のための第65回埼玉県児童生徒美術展覧会

【入選】浅香 琉菜・鯨井 琴羽・佐藤 立季・野口 侑希・浅香 莉菜・中村 友香・長谷部 泰駕・皆川 めい・白庭 由奈・草野 心芭・小池 璃空・瀬戸口 愛・武藤 夢空 (全2年生)